

《担当者名》柴田 侑秀（非常勤講師）

【概要】

環境心理学における基本的なテーマである物理的・社会的・文化的環境と人間の相互関係についての概念や考え方を、理論的もしくは実践的な視点から学び、様々な問題解決のための視点や手法の基礎を学ぶ。

【学修目標】

論理的に推論するために、日常身を置いている物理的・社会的・文化的環境と人間の認知、行動の関連を理論的な側面から理解する。

人間と環境の関連を的確に評価するために、実践的な側面から個別具体的な問題解決の視点および手法の基礎を身につける。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ガイダンス・環境心理学とは何か	授業概要の説明を行う。環境心理学の基本的な考え方について概説できる。	柴田 侑秀
2	環境の知覚と認知	環境を知覚・認知するときの概念に関して理解する。	柴田 侑秀
3	環境デザインとアフォーダンス	アフォーダンスを中心に、環境査定とデザインに関わる人間の特性やパーソナリティとの関連を理解する。	柴田 侑秀
4	パーソナリティと環境	個人の特性と環境との関連を理解する。	柴田 侑秀
5	社会と環境	環境を社会的な側面から捉えた際の人間の認知・行動との関係について理解する。	柴田 侑秀
6	リスク認知と犯罪不安	犯罪に対する市民の認識を取り上げ、その重要性を理解する。	柴田 侑秀
7	犯罪と環境	犯罪を誘発する・抑制する環境について理解する。	柴田 侑秀
8	災害と環境	災害を引き起こす環境と災害時の影響を理解する。	柴田 侑秀
9	NIMBYとリスクガバナンス	迷惑施設の特性について理解する。	柴田 侑秀
10	ゲーミング	ゲーミングを体験し、手法の特徴を理解する。	柴田 侑秀
11	社会的ジレンマ	社会的ジレンマについて理解する。	柴田 侑秀
12	環境配慮行動	環境配慮行動とそれに影響する要因を理解する。	柴田 侑秀
13	環境配慮行動の実践	環境配慮行動の実践例について理解する。	柴田 侑秀
14	環境心理学の研究法	環境心理学の研究法とその実例について理解する。	柴田 侑秀
15	まとめ	授業の内容を概観し、改めてそれぞれの内容の関連を理解する。	柴田 侑秀

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験（レポート）90%、授業時に課す小レポート10%とする。授業時に、現実の社会での環境心理学との関わりについて、学生同士で議論してもらい、よい意見を共有や間違いについては、修正箇所を明示してフィードバックを行う。このような作業を通じて定期試験でのレポートを書く際のヒントを提示する。

【教科書】

使用しない。必要な資料は都度配布する。

【参考書】

羽生和紀著（2008）環境心理学 サイエンス社  
 芝田征司著（2016）環境心理学の視点 サイエンス社  
 高木修監修 広瀬幸雄編集（2008）環境行動の社会心理学 北大路書房  
 広瀬幸雄（2014）リスクガバナンスの社会心理学 ナカニシヤ出版

**【学修の準備】**

授業内容の復習に重点を置くこと。ステップアップの内容として授業時に提示される推薦図書を読み理解を深めること。また、授業終了後に提示した課題についてレポートを作成すること。各授業当たり予習：80分、復習：80分が望ましい。

**【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】**

DP1. 心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識を修得している。  
上記、心理科学部ディプロマ・ポリシーに適合している。